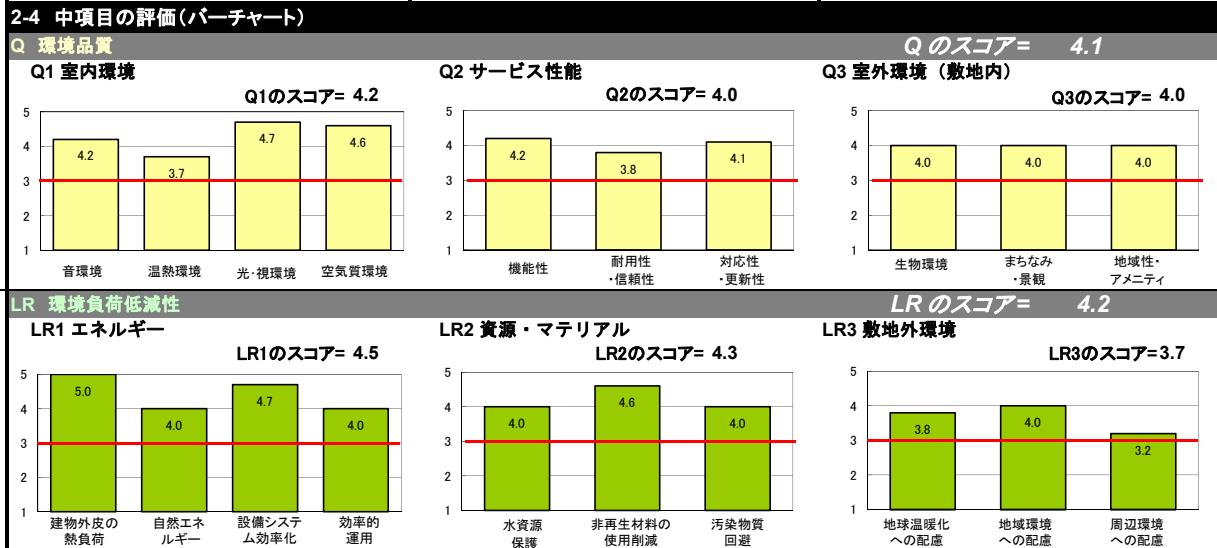
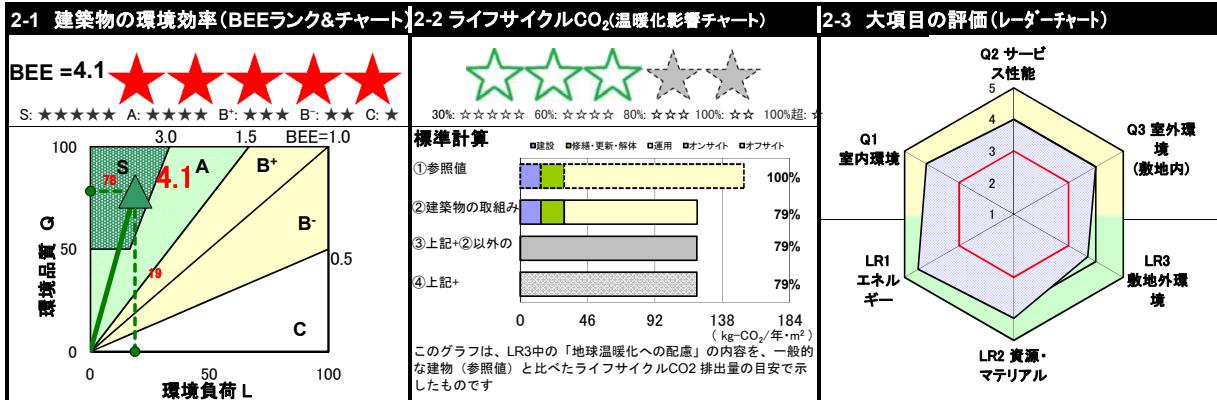




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	資生堂グローバルイノベーションセンター	階数	地上16階、地下1階
建設地	神奈川県横浜市西区高島一丁目2番52他	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,000人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,450時間/年
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年10月 竣工	評価の実施日	2018年6月
敷地面積	6,544 m ²	作成者	鹿島建設 佐々木
建築面積	3,849 m ²	確認日	-
延床面積	56,099 m ²	確認者	-



3 設計上の配慮事項		
総合		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> 東面と北面をダブルスキンファサードとすることによる外反性の向上 太陽高度に合わせてタイマー制御された電動ブラインドによる熱負荷の低減 ゾーン毎に冷房・暖房の切り替えが可能な空調システム 明るさセンサーによる調光制御、タスクアンドアンビエント照明の採用 中央監視設備によるCO₂の常時計測、外気量を制御するシステムの採用 	<ul style="list-style-type: none"> 十分な面積の一人口当たりの執務スペースを確保 研究空間の天井高は2,800mmを確保（平均天井高は2,900mm以上） 制振装置の採用 長耐用年数の仕上材、防汚性の高い材料の採用による維持管理性への配慮 空調・換気系統の保安電源系統の区分、緊急時対応の受水槽への蛇口設置等、災害時の信頼性を向上させた設備計画 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺地域の地形・地質調査、周辺自然環境の一次調査の実施 環境保全効果のある適切な緑地づくりと敷地西側の緑地・水盤による生物環境の創出 見るやうなアンジュレーションで連続する歩行空間と緑地帯で特徴的なコモンスペースをしつらえ、にぎわいのある景観を創出 周囲の景観との調和を図り、透明性の高いガラス外観が人通りの多いみなとみらい大通りへの良好で華やかな景観を形成
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> 北面、東面のダブルスキンファサード、ブラインド制御によるBPIの向上 太陽光発電設備設置による自然エネルギーの利用 環境負荷低減対策を施した設備計画、BPIによるBEIの向上 中央監視設備のエネルギー管理機能によるエネルギー消費量モニタリングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 再利用性、再生産性に優れた建築材料の採用による資源の有効活用への寄与 有害物質を含まない建築材料の使用 節水型器具、雨水利用設備および雑排水利用設備の採用による水資源保護への貢献 窒素ガス消火設備の採用による地球温暖化防止への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 風洞実験による周辺地域への風環境の影響の分析・確認 地下に十分な廃棄物保管スペース、各階に廃棄物保管場所を設置 適切な駐車スペース、駐輪スペースの確保 低Nox型のガス瞬間形湯沸器の設置による大気汚染防止への貢献

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 **資生堂グローバルイノベーションセンター**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】 **3**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **24** %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

- ①ダブルスキンによる温熱性能を向上させ、自動制御ブラインドを採用している。
- ②吹抜空間の大きな開口部により、自然光を適切に利用している。
- ③ペリメタ・インテリア空調系統区分、タスクアンビエント、各系統毎の冷暖切替に対応している。
- ④用途毎別に電力消費量を計測している。ビルエネルギー管理システムを採用し、各設備システムの性能の評価を行う。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】 **4**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

- ⑨⑩ダブルスキン・LOW-Eガラスを採用し、吹抜空間の大きな開口部により光を室内へ導くことで室内環境の快適度を確保する。
- ⑪内装仕上げでは、F☆☆☆☆以上で、ホルムアルデヒド以外のVOCの放散量が少ない製品を全面的に採用している。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

- ⑫十分な広さの研究・執務スペースを確保し、パリアフリーに関して基準を十分な配慮も行っている。
- ⑬執務室の平均天井高さはCH=2.900以上で、北・東面に吹抜を配置し、屋外の雰囲気を感じられる開口部を設置している。

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

- ⑭北側は敷地境界から10mセットバックし、西側の緑地とピロティーを連続させ、夏季の南西向き卓越風対策に取り組む。
- ⑮地域冷暖房方式を採用し、室外機は各階の設備バルコニーに設置することで、設備容量の殆どをGL+10mに設置する。

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

4

■耐用性・信頼性 (⑯耐震・免震 ⑰部品・部材の耐用年数向上 ⑱信頼性)

- ⑯制振装置を導入し、耐震安全性に配慮し、強風時の内部設備の保護にも寄与している。
- ⑰外壁仕上材、内装仕上材は更新必要間隔の長い材料を採用する。
- ⑱空調機・外調機の電源供給を保安電源とし、災害時に優先的に運転させる計画としている。
- ⑲地下ピットに汚水槽・中水受水槽・受水槽に震災用水栓を設置している。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

4

■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境 ⑳まちなみ・景観 ㉑地域性への配慮)

- ⑲設置する植栽の特性・大きさ等を検討し、植栽の生育に十分な土壤と設備を設けた緑地づくりを行っている。
- ⑳低彩度の色彩を基調とし、周囲の建物と調和、周囲に圧迫感を与えない計画とする。
- ㉑街区の周辺建物高さとの調和した建物高さと、シンプルかつ存在感のある外観デザインで良好な景観を形成する
- ㉒道行く人の憩いのスペース、大災害時の帰宅困難者の受け入れスペース、出会いと交流の場を設け、防犯性にも配慮している。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギー管理システム以外)



太陽光利用

建物間のエネルギー融通 :

雨水等利用設備 :

エネルギー管理システム導入

BEMS